

かいたく

教会のない地域に教会を 刈り入れ場に働き人を



まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。(ヨハネの福音書三章三節)

ある有名な神学者が教会について語ったとき「教会がその地域に存在すること自体がイエスキリストを証している」と述べたそうです。伝道をしていってなかなか反応が見られず、自分たちの存在の意義を考えてしまうと、教会が存在することが証であると言われると慰められる気がします。しかし、教会は、そこで何が語られ、何を伝えているかが大切です。

「御霊のことは御霊によってわかまえる」と聖書は教えています。しかし、人は神様から新しく生まれ、霊的に生かされた者にならなければ、霊である神様のことを悟ることはできません。神の国を見ることはできません。そして、そのことを伝える牧師・伝道師をはじめクリスチャンたちが、まず霊において養われ、御霊に満たされ、常に神の国を見る者でなければならぬでしょう。

私たちの主イエス様は休むことなく神の国を語られました。主はそんな忙しい生活の中でも、人々から離れ、父なる神様との交わりを大切にされました。私たちはそれを私たちの手本にして、御霊に満たされ、人々の霊的飢え乾きに敏感な者となっていきましょう。

(JBBF国内宣教委員会委員長・榎本昌博)



—ローマ教会に見る婦人信徒の信仰と働き—

教会と婦人



上越BBC牧師
加治佐 清也

今回、教会と女性（婦人）というテーマをいただき、できれば多様な婦人信徒の姿をと思い、ローマ人への手紙十六章を選びました。パウロはこの中で、ローマ教会の信仰の友に挨拶を述べており、うち九名が婦人です。彼女たちの姿を通して、教会における婦人の信仰や働きについて見ていきます。

一人目の婦人はプリスカです。アクラの夫人で、パウロから同労者と呼ばれる真の協力者でした（三節）。この夫婦はコリントで一緒に働いていた頃でしょうが、自分のいのちの危険を冒してまでパウロのいのちを守ったことがある、肝の据わった夫婦でした（四節）。ローマでは自宅を家の教会として開放しておりました（五節）。

二人目の婦人はマリヤです。ローマ教会のために非常に労苦した女性でした（六節）。「あなたがたのために」労苦したと紹介されている人は、男女あわせても彼女だけです。自分を捨て、他者のために一生懸命に仕えることにおいて顕著な婦人だったでしょう。

三人目は。アンドロニコの夫人と言わ

れているユニアスです（七節）。この夫婦は、パウロよりも先に救われました。ですから、救われる前のパウロ、迫害者パウロを知っていたでしょうが、救われて使徒となったパウロによく仕え、いっしょに投獄までされたのです。先輩でありながら高ぶらず、過去にこだわらず、清々しく使徒パウロに仕えたご夫婦でした。

十二節には三人の女性が出てきます。ツルパナとツルボサは、アナトリア王族の関係者で、双子の姉妹と言われています。ペルシスは、名前からしてペルシヤ人の解放奴隷と言われています。生い立ちには対照的ですが、いずれも主にあって労していた婦人でした。特にパウロはペルシスを「非常に労苦した愛するペルシス」と呼び、その社会的立場から苦労の多かったであろう彼女をいたわっています。

次のご婦人は、ルポスの母です。興味深いのは、パウロが友人の母を「彼と私の母」と呼び慕っていることです（十三節）。ルポスは、イエスの十字架を背負い、その後アンテオケ教会の役員にな

ったクレネ人シモンの息子とも言われます（マルコ十五章二一節、使徒十三章一節）。同時期、パウロもバルナバに連れられアンテオケにおいて、ルポス一家に世話になったのだとすれば、ルポスの母はパウロをその駆け出しの頃から母のように見守ってきた婦人だったと言えるでしょう。

最後の二人が十五節に紹介されています。ローマ皇帝一家との関係があったフィロロゴの妻ユリヤ。貴族出身のクリスチャン婦人との関係が指摘されているネレオの姉妹。高い身分だからと言って、パウロは特別に扱うことなく、同じように挨拶を送ります。解放奴隷から皇帝一家関係者まで、身分や立場の違いを超えて、一つに集まり主を礼拝するローマ教会の姿が目に見えます。

以上、九名の婦人たちでした。付け加えますと、この手紙をローマに届けたのも婦人であるフィベでした。彼女もまた多くの人を助け、パウロをも助けた人でした（二節）。信頼できる人物として、パウロは彼女を手紙の届け人として推薦したのでした（一節）。

こうしてみますと、ローマ書十六章の婦人たちに共通するのは、労苦して献身的に、時に命をかけて働き人や教会の兄弟姉妹を見守り、助け、支援する姿です。そこにパウロも目を留め、感謝と敬意を覚えていきます。彼女たちの働き抜きに、初代教会を語ることはできません。今日に至るまで、教会はそうした婦人の働きによって前進してきました。彼女たちを突き動かしているもの、それは罪人を救うために十字架で命を捨てるまで愛してくださった神の愛であることを覚え、神を賛美します。同じように神の愛に動かされ、ローマ教会の婦人たちに続く婦人がさらに起こされ用いられ、神がほめたたえられますように。



婦人集会の証



アガペー聖書
バプテスト教会
伝道師
スタンフォード
ジョイ

当伝道所の私たち女性は、毎月の女性の集いを本当に楽しみにしています。



集える人数はその時々により異なりますが、いつも恵まれる大好きな集いです。集いでは先ず、聖歌より賛美を歌い、祈り、聖書からの学びをします。テーブルを囲い、お茶などを飲みながらのリラククスできる集いです。聖書の学びの後、学びによって示されたことや学びについての質問、祈りの課題などの分かち合いの時を持ちます。分かち合いが終わると最後に賛美と祈りをもって閉じます。お互いのことをより詳しく知り、より具体的に祈り合えるので、私はこの集いによって多くの祝福を頂いています。教会での集いが終わった後近くのレストランに出かけ、昼食を一緒に頂きます。また年に何回か温泉などにも行きます。忙しい中、女性の集いに出席することが少し大変なこともあります。聖書の学びや姉妹方との主にある交わりによって毎度祝福されます。いろいろな集いのある中、女性の集いは私の大好きな集いです。主がこの集いを引き続き祝福し、用いてくださるよう、お祈りくださいれば幸いです。



千葉バイブル
バプテスト教会
教会員 婦人会長
村上 美穂子

在籍数49名と30代から90代までの幅広い年齢層の婦人たちがこの千葉教会に与えられていることは、教会にとって大きな恵みです。集会で最も大切なのが「婦人祈祷会」、毎週木曜日の午前中に20名程が集い、賛美や証に聖書の学びを通して主からの豊かな糧を頂きます。更に、課題に添って二人一組となり、教会やJBBFの働きのために心合わせて祈り合うことで、教会に必要な力を生み出せると確信します。もう一つは「部会集会」、月1回第四週の午後には学びや年間計画に添った話し合いが進められ、9月は石川恵師による「真心からの礼拝」と題して信仰者の礼拝に臨む姿勢を学ばせて頂きました。「心を注ぎ出して御声を聞く」ことは、決して並大抵ではありませんが主はそれを私たちに望んで居られるのです。次週から実践で心を込めて・・・

婦人会はこの2つの集いを軸に、教会の行事と平行させながら与えられた賜物を用い合い、諸活動の中に課せられた各々の役割と責任を信仰の心で実現させて行くことが願いです。その立ち姿は、まるで主に在る愛の戦士そのものです。又



には聖歌隊賛美曲にハンダグ語のレパトリも生まれました。教会は9月、恵みの内に創立65周年を迎えることが出来ました。長い年月の流れの中には、年子師ご尽力のもと婦人から婦人へ引き継がれてきた多くの尊い働き(奉仕)が在り、その一つづつが教会の大きな力の基と成って根を張り、豊かに主のみ前で用いられた証の歩みで在ることは婦人会の誇り(宝)です。

春のバザーでは、婦人会で庭の夏みかんで手作りジャムを提供したり、近年この群れに加えられた韓国の姉妹たちによるキムチやチヂミも出品されて、大好評でした。更



歌の森聖書
バプテスト教会
牧師夫人
秋山 佳代子

当教会では、毎月（8月以外）第三火曜日、午前10時から2時間ほど、＼コーヒアワー＼というひとときをもっています。

この集いは、聖書からのメッセージを聞き、賛美をし、集われた方々とお菓子やお茶を頂きながら交流を深める集いです。教会は初めてという方も集ってくださるので、ランチや簡単なクッキング、かわいい小物作り、ブックフェアなどのイベントを織り交ぜながら、楽しんで頂

けるようにと企画しています。またある月は、集った方々が姉妹方のみ、という時もあります。いつもより、聖書を学ぶ、時や交わりの時になり、それはまた感謝なひとときです。メッ

セージは、無牧状態だった頃より来てくださったマハー満枝先生（宣教師夫人）と牧師が語ってくださっています。

この集いは、旧・小杉バプテスト教会時代から続いています。以前の集会名は＼ミセスのコーヒアワー＼だったそうです。ですが、ある一人の年配の兄弟が集ってくださるようになり、＼ミセスの＼をやめられたと聞いています。今まで様々な方が集ってくださっています。

この集いをきっかけに、信仰に導かれた方々も多く起こされています。以前と比



べれば、様々な理由で参加できる方が少なくなっているように思いますが、毎月の集いには、主が送ってくださる方々が集われています。月に一度のほんのひとときですが、この集いを通して出会わせて頂ける方々兄弟姉妹とのお交わりを主に感謝しています。



掛川聖書
バプテスト教会
牧師夫人
榎本 菜穂子

私たちの教会の婦人集会は、開拓当初から長らく主人がやっていたのですが、今は私が担当しています。婦人集会の持ち

方で自分の転機となったのは、高槻聖書バプテスト教会を訪問した折に、エレン・キング先生より婦人集会での留意点や内容を具体的に教えていただいたことでした。それまでは一方的に私が話していましたが、エレン先生は参加者が主体的に学べるようにと言われました。それから祈りつつ教えていただいたことを真似てやり始めたのですが、姉妹たちの反応は今までとは大きく違いました。私の準備も変わり、聖書の登場人物をピックアップし、その人について書かれている聖書箇所を全て書き出したノートを作り、そのノートには姉妹たちが自分で学べるように余白を大きくつけました。それを事前に読んできてもらい、一人一人にわ

かったことや感想を聞きます。毎週やってきてもらえるかなと心配しましたが、姉妹たちは自分でその人物について考え話すようになりました。話してもらったことで姉妹たちの信仰の素晴らしさ、一人一人の聖書の習熟度、問題点などもわかり、私自身にも収穫の多い学びでした。

姉妹たちも、この登場人物の学びを通して聖書の内容がよくわかるようになっていきました。が、ひと通り学び終えて、信仰の柱となる教理の整理の

必要を感じました。わかっているけど質問されると答えることができない。そんな声は姉妹たちからも上がりました。それで今は子供向けの教理の本をテキストとして学んでいます。例えば「かみさまは見る事ができるの？」と子供に聞かれたらどう正しく答えるかということや聖書から見ていきます。また婦人会報に終わった課の質問を載せ、復習できるようにしています。エレン先生に教えていただいたことを機に私が変わえられ、婦人集会も変わってきました。それは主が導いてくださった転機があったからです。そしてこれからも足りないところを主が示してくださいるようにと願っています。

「私の目を開いてください。私が、あなたのみおしえのうちにある奇しいことに目を留めるようにしてください。」

詩篇一一九：一八

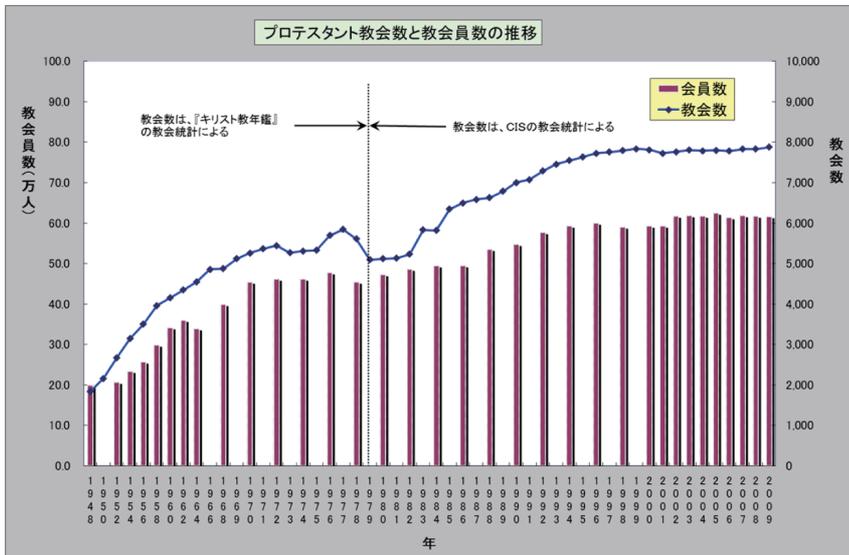


日本キリスト教界の現状

『データブック 宣教の革新を求めて ―データから見る日本の教会の現状と課題―』
(東京基督教大学国際宣教センター・柴田初男著、2012年発行)より

これから数回にわたり、日本の教会が置かれている現状をグラフや具体的な数値によってご紹介します。キリスト教界全体の動向を把握することで、私たちJBBF諸教会に委ねられている日本宣教の祈りを増し加えていただければ幸いです。尚、ご紹介する統計と考察文はすべて、東京基督教大学国際宣教センターと柴田氏のご好意による転載です。一部、氏の了解を得て手を加えています。(編集および本文注:徳田信)

01 「プロテスタント教会数と教会員数の推移」※1



『データブック』27頁より

「CIS※2 ニュース」の統計データをもとに、日本のプロテスタント教会の状況を詳しく見ていくと、現在、全国のプロテスタント教会の教会数は、約7,900である。教会数の推移としては、戦後2,000弱の教会数であったのが、その後の30年ほどの間に約3倍の6,000近くまで急速な伸長をしてきた。1990年過ぎまでは増加傾向が続いていたが、その後の20年間は、教会数の増加は鈍化し、2000年前後に7,800に達したが、現在はほぼ横ばいかあるいは逆にやや減少傾向を見せているのが現状である。

また、教会員数は、ここ15年以上約55万人前後、人口比では0.4%台で推移し長らく変化はない。実質的な活会員数に近い礼拝出席者においても同じように横ばい状態であり、人数としては教会員数の約50%で、人口比0.2%台で推移している。受洗者※3数やCS※4 出席者数も減少傾向にあり、一教会当たりの受洗者率もかろうじて1.0人を維持しているのが現状である。

一方、受洗者数が2010年で約7,500人前後あるが、2010年の日本の死亡率9.5人(人口千対)を適用すれば、召天者は約5,000人と推定される。しかし、教会において高齢者が占める割合は一般社会より高いことを考慮すると、それ以上の召天者が出ているのではないかと考えられる。従って、召天者だけではなく、教会からの離脱者の存在も含めて考えると、今後、それらによる減少分を上回る受洗者数の増加を、さらに計っていかねばならない。さもなくば、教会員数は減少傾向に陥ることになり、日本のクリスチャン人口全体が減少していく極めて危惧すべき状況になりかねないのではないと思われる。

『データブック』25頁より

※1 統計上、JBBFなどバプテスト教会も含む。

※3 統計上、バプテスト教会等の受浸者も含む。

※2 教会インフォメーションサービスの略。

※4 Church School(教会学校)の略。SS(日曜学校)と同義。

